

● 日本におけるリーフチェック

宮本育昌 ●

リーフチェック

リーフチェックは、世界規模でサンゴ礁の「健全度」を調査するための、世界統一手法によるボランティアベースのサンゴ礁モニタリング調査で、現在は米国のカリフォルニア大学ロサンゼルス校に設置されているリーフチェック財団によって管理・運営されている。毎年、世界中のサンゴ礁でチームが組織され、訓練を受けたダイバー、地元住民、科学者らが協力して調査を行っている。

リーフチェックは次の点を目的としている。①科学的なデータによって、世界のサンゴ礁に対する人為的な影響を大まかに把握する。②社会に対して、サンゴ礁の価値、サンゴ礁への人為的な影響、サンゴ礁の保護などについて啓発を行い、さらなる人為的な影響を低減する。

リーフチェックはICRI（国際サンゴ礁イニシアティブ）およびGCRMN（地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク）の重要なパートナーであり、世界中から集められた調査データはGCRMNとReef Base（サンゴ礁に関する世界規模のデータベース）に提供されている。

リーフチェックの普及は各国のリーフチェック・コーディネーターによって行われており、日本では、NPO コーラル・ネットワークに所属する3名がその任務にあっている。コーラル・ネットワークでは、リーフチェックに関する説明会や勉強会の開催、実施ツールの開発、日本語マニュアルの整備、日本語ウェブサイトの整備、リーフチェックの開催支援などの活動を精力的に行っている。

日本におけるリーフチェック活動実績

国内における調査地点数と延べ参加者数の推移を表1に示した。2003年度は、台風などで複数のチームが調査中止となったため、調査地点数および参加者数があまり増えなかったが、今年度はさらに石垣島桜口、父島、西表島外離島南で新しく調査が始まっている。

一般ダイバーのサンゴ礁環境保護への関心は日本でも確実に広がっており、このようなダイバーの参加機会を増やすためにも、受け皿となるチームをさらに増やしていきたいと私たちは考えている。そのため、主催する地元の方々（行政、NPO、ダイビ

ング事業者など）の関心をさらに高めていきたい。

リーフチェックチーム

日本でのリーフチェックの開催は、ボランティアで構成されたチームが大半を占めている。主催者は、ダイビング事業者・NPO 共催12チーム、ダイビング事業者2チーム、NPO 6チーム、自治体2チームとなっている。その中でコーラル・ネットワークは、主催・共催・協力でほとんどのチームと関わっている。今後とも、チーム科学者、地元住民、ボランティアをつなぐ役割を果たしていきたいと考えている。

調査では、以前より地元在住の科学者が増えてきたが、今後も地元に着目した調査としていく観点から、より多くの調査地在住の科学者や調査地を定期的な調査フィールドにしている科学者に協力をお願いしていく予定である。また、ダイビング事業者を除いた一般ボランティアもほとんどが遠隔地からの参加者だが、今後はサンゴ礁地域でのリーフチェック・セミナーの開催や広報活動を活発に行い、より多くの地元住民の参加を呼びかけていきたい。

今後の課題

リーフチェックは地域に根ざした調査を目指している。その観点から、サンゴ礁地域で生活しているレジャーダイバーやダイビング事業者、さらには地域社会をもっと巻き込んでいく必要がある。私たちは、今後ともボランティアベースではあるが、日本におけるリーフチェックをさらに推進していこうと考えている。

表1 日本国内におけるリーフチェック調査地点数および延べ参加者数の推移

年	調査地点	参加者
1997	2	12
1998	12	74
1999	11	133
2000	16	約190
2001	17	約250
2002	20	約300
2003	19	約300